

令和 3 年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立大国小学校

令和 4 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「大阪市教育振興基本計画」において、「最重要目標」として、

(1)子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

(2)心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

が掲げられている。この最重要目標に即する現状と課題は下記の通りである。

(1) 子どもが安心して成長できる安全な社会の実現

○安全安心な学校の実現について

保護者・地域・関係諸機関と連携を図り、安全安心な学校の実現に努めている。登下校では、教員が定期的に通学路等の安全確保に努めたり、地域の方々が下校時の見守り活動をしていただいたり、PTAの方が登下校の子どもの見守り活動をしていただいたりしている。また、月に1回、校内の安全点検を行い、学校施設の安全整備に努めている。さらに、教職員全員で児童理解を行い、子ども1人ひとりに応じた支援に努めている。令和2年度末の保護者アンケート「お子さまは、楽しく学校に行っている」に対して肯定的な回答は98%、「学校は、子どもの安全確保について、積極的に取り組んでいる」に対して肯定的な回答は96%であった。今年度も85%以上を維持していきたい。また、令和2年度末の児童アンケート「学校はたのしい」に対して肯定的な回答は88%であった。

今後とも、集団育成に取り組みながら、一人ひとりの子どもに寄り添った教育活動を進めていく必要がある。また、個々の家庭との連携を深め、子どもの生活実態の正確な把握に努めていく。問題等が把握されれば、関係諸機関（こども相談センター、浪速区子育て支援室、民生委員協議会、連合町会）等と協議し改善に努めるようする。さらに、地域社会から孤立する家庭や子どもをなくすために、社会福祉協議会、地域活動協議会と連携し、「大田こども食堂“まんぷく”」等を通し、子どもや家庭と地域との関わりを深めていくようにする。

○暴力行為、いじめについて等について

子どもは発達段階において、友だちと喧嘩をしたり、言い合いになったりすることがあるが、話し合いで解決できるように努めている。

自分の思いや気持ちをうまく伝えることができない子どもがトラブルになりやすい傾向がみられる。令和2年度の児童アンケートでは「先生や友だちに自分の思いや気持ちを話せている」という質問の肯定的な回答は72%に留まっている。日々の学級指導や、道徳、総合的な学習の時間などの学習を通して、自分の思いや気持ちをうまく伝えることができるように努める。

令和2年度のいじめアンケートでは、いじめ事象を100%解消することができた。今年度も教職員のいじめへの認識を高め、教職員が子どもの話に耳を傾けるなど日常の子どもとの対話を重視し、早期発見、早期解決を図り解消率を維持していきたい。

○不登校児童について

令和2年度は不登校児童が3名いた。こども相談センター、浪速区子育て支援室、主任児童委員とも連携をとり、改善に向けて取り組んでいる。1日でも多く登校できるように、

不登校の中でも学力保障ができるように、保護者との対話をさらに進めたい。

○あいさつ運動について

児童会が中心となり、「あいさつ運動」に取り組んでいる。令和2年度の児童アンケートでは「“おはようございます”などのあいさつをしている」の肯定的な回答は87%であった。民生委員の方々が月に一度正門に立ち、あいさつ運動に参加していただいている。また、下校時には、地域の見守り隊の方々が、児童に挨拶をしながら、児童の安全を守る活動が続けてくださっている。学級でもあいさつの大切さを理解できるようにしたり、あいさつへの啓発を行ったりするなどして、自分と関わる多くの人たちと自然にあいさつを交わすことができるようにしていきたい。

○地域の伝統産業とのかかわり

「大阪らしさを活かした取り組み」として、地域の伝統産業である「かわ・皮・革」についての学習を、全学年を通して行っている。学習にあたっては、地域のサポートをいただきながら、児童が太鼓演奏をするなどして、地域との交流を図り、地域のよさや命の大切さに気づく実践を行っている。この本校の伝統的な特色ある取り組みを継続して行っていく。

(2) 心豊かに力強く生き抜き未来を拓くための学力・体力の向上

① 学力の向上について

○学力経年調査について

学力経年調査の結果においては、標準化得点が3年97.5、4年91.2、5年99.6、6年95.1とすべての学年が大阪市の平均を下回った。

○質問紙調査から

質問紙調査の「学校の授業時間以外に、ふだんどれくらいの時間、勉強していますか」の質問に着目すると、「30分よりすくない」と答えた児童の正答率は明らかに低い結果となっている。これまでも家庭学習の啓発を図ってきたが、今後も家庭学習ができるように工夫するとともに、家庭で落ち着いて学習できない環境に置かれている児童が学校で学習して帰ることができることに重点を置き、浪速区のホットルーム事業との連携や、放課後学習に力を注いでいきたい。

また、質問紙調査の「読書は好きですか」という質問に対して、肯定的回答は76.5%だったが、「学校の授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問では「30分よりすくない」と回答した児童が58.8%であった。家庭での読書が定着していないことが分かる。今後も家庭での読書時間を増やす啓発活動をするとともに、子どもが学校生活でも本にふれる機会を増やす。そのために、図書室の充実を図るなど環境整備をするとともに、図書委員会による読書推進活動を進めるなど、読書意欲を高める工夫を図りたい。また、読み聞かせボランティアによる月に一度の読み聞かせ運動にも取り組んでいく。

○新学習指導要領を見据えて

主体的、対話的で深い学びを推進する。子どもたちの中には、指導者の指示を待つなど、主体的に学習できず、受け身的な傾向がみられる。児童が「学びたい」と思えるように導入を工夫し、互いの考えを交流する対話的な学びを大切にしながら、まとめのときも「な

ぜ」の疑問を大切にすることにより、主体的、対話的で深い学びを推進していく。さらに、プログラミング学習にも全学年で取り組んでいく。

○体験的な学習活動の重視

社会的な事象を直接見たり、聞いたり、触れたり、また人と出会い話をしたりすることを通して、自分の生活との関連などを具体的に考えたり、行動したりすることができるよう体験的な学習活動を多く取り入れていく。

②体力の向上について

体育科の授業の初めに、準備運動と柔軟体操を取り入れることにより、怪我の防止と柔軟性の向上に結びついている。

また、休み時間に、担任や担当が子どもたちと一緒に走ったり、サッカーをしたり、ドッジボールをしたり、一輪車をしたり、竹馬をしたり、長縄跳びをしたりして遊ぶことにより、子どもたちの体を動かす機会の増加、体を動かすことが好きになる子どもの増加、基礎体力の増進に繋がっている。

さらに、学校全体で取り組んできた「外遊び週間」、「たてわり遊び」、「長縄大会」などの実施を通して、運動遊びの楽しさに触れる機会を多くもつように取り組むことにより、運動遊びの楽しさに気づく子どもが増えた。

20mシャトルランは、令和2年度は45回であり、昨年度を2.3回上回った。今後も、持久力を向上させる取り組みを引き続き進めていく。持久力を向上させる取り組みとしては、個人の頑張りがわかるマラソンカードの導入、マラソン大会の実施、体育科の授業の初めにランニングをする等が考えられる。

また、本校では、朝食を食べていない児童が大阪市や全国の平均と比べて多い。さらに、ゲーム機やスマートフォン、タブレットの画面を見ている時間が、大阪市や全国の平均と比べて長い。入学説明会、学校ホームページ、学校便り、学級懇談会、学年便り、PTA新聞などを通して、子どもだけでなく保護者へも啓発を行っていく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を90%以上にする

○令和3年度の校内アンケートで「先生や友だちに自分の思いや気持ちを話せている」と答える子どもの割合を90%以上にする

○令和3年度の子どもアンケート、保護者アンケート、地域関係者アンケートともに「きちんとあいさつをする」の項目の肯定的な回答の割合を95%以上にする。

○令和3年度の保護者アンケート、地域関係者アンケートともに「学校は子どもの安全確保に積極的に取り組んでいる」項目の肯定的な回答を95%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成28年度（3年88、4年92、5年86、6年92）より向上させる。

○令和３年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を 85%以上にする。

○令和３年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学校の授業時間以外に、ふだん 1 日当たりどれぐらい、勉強をしますか。」に対して、30 分以上を回答する児童の割合を 70%以上にする。

○令和３年度の校内アンケートで「運動したり、外で遊んだりすることは好きだ」という項目の肯定的回答を 90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

○令和３年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。

○令和３年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を 85%以上にする。

○令和３年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。

○令和３年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

○令和３年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と答える子どもの割合を 80%以上にする

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

○令和３年度の小学校学力経年調査における標準化得点（R2 年度 3 年 97.5 4 年 91.2 5 年 99.6）を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

○令和３年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。

○令和３年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。

○令和３年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。

○令和３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「シャトルラン」の平均の記録を、前年度より向上させる。

学校の年度目標

○令和３年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○令和3年12月の校内調査において、いじめについてアンケートに記載された件数は7件であった。そのすべてについて詳細に調査し、対応した結果、解消した割合は100%であり、目標を達成した。

○令和3年12月の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数は、前年度・今年度ともに0件であり、目標を達成した。

○令和3年度において、新たに不登校になる児童の割合は0%であった。

○令和4年1月に実施した校内アンケートで「学校は楽しい」と答える子どもの割合は93%であり、目標を13%上回った。

○令和3年度の児童アンケートにおいて、「友だちの嫌がることをしたり、言ったりしていない」と肯定的に回答する児童の割合は91%であり、目標を11%上回った。

○令和3年度の児童アンケートにおいて、「先生や友達に自分の思いや気持ちを話せている」と肯定的に回答する児童の割合は74%であり、前年度よりも2%向上した。

○令和3年度の児童アンケートにおいて、「クラスの友達とは仲良くできている」と肯定的に回答する児童の割合は97%であり、前年度よりも7%向上した。

○令和3年度の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合は80%であり、前年度よりも4%向上した。

○令和3年度の児童アンケートにおいて、「おはようございますなどのあいさつをしている」と肯定的に回答する児童の割合は84%であり、前年度よりも3%減少した。

多くの指標において、今年度の目標を達成することができた。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「シャトルラン」の平均記録は35回であり、前年度よりも10回減少した。

○児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」と答える子どもの割合は95%であり、目標を10%上回った。

○令和3年度の児童アンケートにおいて、「プログラミング学習は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合は86%であり、目標を4%下回った。

○令和3年度の児童アンケートにおいて、「授業中、自分で考えて勉強したり、友だちの考えを聞いたりできている」と肯定的に回答する児童の割合は83%であり、目標を5%上回った。

○令和3年度の漢字検定の合格率は69%であり、前年度よりも3%向上した。

多くの指標において、今年度の目標を上回ることができたり、目標通り達成したりすることができた。

大阪市立 大田小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 全市共通目標 ○令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を85%以上にする。 ○令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 学校の年度目標 ○令和3年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と答える子どもの割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめのない安全・安心で楽しい学校生活が送れるようにする。 指標 ○いじめに発展する前の段階での早期発見、早期解消を図るために、児童アンケートを学期に1回実施し、実態の把握に努める。 ○いじめと認知した場合、事案のすべての解決に取り組む。人権教育会議を月1回程度実施し、情報と手立て、今後の方向性を全教職員で共有する。	A
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 児童一人ひとりの個性を大切にし、より良い仲間づくりに取り組む。 指標 ○令和3年度の児童アンケートにおいて、「先生や友達に自分の思いや気持ちを話せている」と肯定的に回答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。 ○令和3年度の児童アンケートにおいて、「クラスの友達とは仲良くできている」と肯定的に回答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。	A

取組内容③【施策２ 道徳心・社会性の育成】 人権教育を推進し、自尊心や自己肯定感向上に取り組む。 指標 ○「褒めて、認めて、励ます」を実践しながら、児童の自尊心や自己肯定感向上に取り組む。 ○「かわ」等体験的な学習に系統的に取り組む。 ○令和３年度の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。	B
取組内容④【施策２ 道徳心・社会性の育成】 学校生活の月目標に基づき、相手の気持ちを考えて行動する意識を高める。 ○相手のことを考えた行動を、日々の学級指導に取り組む。 ○令和３年度の児童アンケートにおいて、「友だちの嫌がることをしたり、言ったりしていなようにしている」と肯定的に回答する児童の割合を、８０％以上にする。 ○令和３年度の児童アンケートにおいて、「おはようございますなどのあいさつをしている」と肯定的に回答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。	B
取組内容⑤【施策２ 道徳心・社会性の育成】 性・生教育に取り組み、豊かな心や、互いのちがいを認め合える心を育む。 指標 ○性・生教育の年間カリキュラムを作成し、全学年で系統立てて取り組む。 ○令和３年度の児童アンケートにおいて、「自分を大切にできている」と肯定的に回答する児童の割合を、８０％以上にする。	A
年度目標の達成状況や取組の結果と分析	
①いじめアンケートや日々の関わりから、いじめに発展しそうな事象を早急に発見し解決に取り組んだ。また、人権教育会議を月に１回開催し、児童を取り巻く状況を学校全体で共有している。 ②③⑤新型コロナウイルス感染症で新規感染者数が去年度より多くなる中、命や心身健康について考える機会がより一層増えている。「褒めて、認めて、励ます」を実践し、太鼓づくりをはじめ体験的な学習にと組み、さらに昨年度同様、辻由紀子先生の指導の下、研究授業など生きる教育を継続して行った。また大国小学校独自のカリキュラムを作成し、さらに系統立てて取り組みやすくなり、自分を大切にし、自分を肯定的にとらえる割合が増えてきている。 ④依然として、友だちの嫌がる言動が見られるものの、日々の道徳学習や学級活動を中心とした学習に加え、達成感を味わえる取り組みを多く行い、学校生活に満足する子どもが増え、相手を意識した行動へ繋がっている。	
改善点	

①今後も背景や要因に何があるのか分析し、学級を中心に学校全体で取り組んでいく必要がある。そのため、実践報告の場からさらに児童理解が進む交流の場へと変えていく必要がある。

②③⑤日々の学習や学校生活全体で人権教育を進め、正しく知って正しく活かせるように人権教育・性・生教育を継続して行っていく必要がある。また、やりぬく力をつけるため、我慢できる体験も必要である。

④あいさつを返すことがよりできるようになってきたので、自らしたり、身近でない人にも挨拶したりできる環境づくりをすすめる必要がある。

大阪市立 大国小学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標 ○令和 3 年度の小学校学力経年調査における標準化得点（R2 年度 3 年 97.5 4 年 91.2 5 年 99.6）を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○令和 3 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 ○令和 3 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。 ○令和 3 年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。 ○令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「シャトルラン」の平均の記録を、前年度より向上させる。 学校の年度目標 ○令和 3 年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 全学年において、プログラミング教育に取り組む。 指標 ○プログラミング教育の年間カリキュラムに基づき、Pepper 等を活用したプログラミング教育に全学年で取り組む。 令和 3 年度の児童アンケートにおいて、「プログラミング学習は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。	B
取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 主体的、対話的で深い学びの授業に取り組む。 指標 ○経年調査において、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた」と肯定的に回答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。	A

○令和３年度の児童アンケートにおいて、「授業中、自分で考えて勉強したり、友だちの考えを聞いたりできている」と肯定的に回答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。 ○芸術鑑賞会と学習発表会を年に１回ずつ実施する。	
取組内容③【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 「できた」という経験を積み重ね、自己肯定感を高める。 指標 ○漢字は前倒し学習し、漢字検定の合格率を前年度より向上させる。 ○音読の暗唱テストの合格や１００マス計算でのタイムを学校全体で評価し、児童への価値づけを行う。 ○令和３年度の児童アンケートにおいて、「新しい学年になって、自分の中でがんばったことがある」と肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。 ○一人ひとりの学力を把握し、個に応じた指導を行う。	A
取組内容④【施策４ 国際社会において生き抜く力の育成】 子どもたちが楽しく英語を学び、コミュニケーションしようとする力を育む。 指標 ○全学年で週２回１５分の英語モジュール学習に取り組む。 ○令和３年度の児童アンケートにおいて、「英語学習がたのしい」と肯定的に回答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。	A
取組内容⑤【施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成】 健康や体力に対する意識を向上させ、じょうぶな体を育てる。 指標 ○健康や姿勢について、日常的な指導や学期に１回保健指導を行う。 ○なわとび等の持久力を高める取り組みに、学校全体で取り組む。	A
年度目標の達成状況や取組の結果と分析 ①学年に応じた取り組みができた。しかし内容によっては、難しい取り組みになったものもあるので、無理をせず楽しく取り組めるカリキュラムの見直し等が必要である。 ②コロナ禍でも感染症対策を講じて多くの取り組みを行うことができた。特に学習発表会では、練習やみんなの前で発表する経験を通して達成感を得られた。また、授業の工夫などにより児童一人ひとりの考えを伝え合うことができるようになってきた。 ③日々の取り組みにより「できた」の積み重ねができ、自己肯定感を昨年度より上げることができた。また、毎日のグッとタイムや漢字前倒し学習、漢字検定に向けての取り組みで児童にとって漢字学習に対する意欲がわくと共に、漢字の読み書きの力が向上した。 ④週２回１５分の英語モジュール学習やＣ－ＮＥＴ・中学校の英語教員と連携し、工夫した英語学習ができ、児童が英語に親しみながら学習することができた。 ⑤発育測定や検診、委員会活動を中心とした日々の保健指導で児童に健康に過ごすための生活や良い姿勢の大切さを指導することができた。また、体力向上の取り組みに熱心に取り組む児童が多く、体力	

を向上させて丈夫な体をつくる大切さを知ることができた。

改善点

①プログラミング学習の授業に生かせるような研修会を実施し、児童の実態に応じた取り組みを進める。

②③学習に対する意欲も高まり、肯定的な割合も増えたが、学力がなかなか定着しない児童も多い。そういった児童に対して、個別に最適な学びができるようにしていく。また、漢字の読み書きができて、漢字のもつ意味が分かっておらず、生かすことのできていない子どもが多いため国語の授業を中心に補完していく。

④⑤今年度の取り組みを生かし、継続的な取り組みができるようにしていく。